

学校力向上の推進 ～目的と手段を区別し、見える化を図った取組～ 旭川市立青雲小学校 学級数6（4）（校長 及川 勝也）

I はじめに

本校は、平成30年度から学校力向上に関する総合実践事業の実践指定校として、学校の教育目標「たくましい子ども」の下、本年度の重点教育目標「やるべきことをやり、自ら考えて行動する子どもの育成」の実現に向け、「小さな約束（目標）をみんなでやりきる学校」を合い言葉に、全校が一つのチームとなった学校改善を推進している。

また、教員19名中、初任段階教員が6名、中堅層教員が6名所属していることから、若手の育成と将来のスクールリーダー育成の仕組みを構築している。

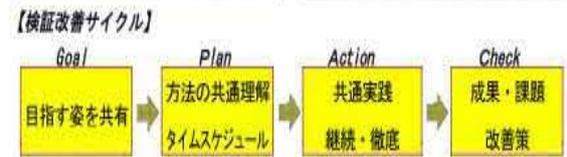
II 実践の概要

1 学校マネジメント

(1) 「4期」での教育活動の推進

1年間を4期に分けて、全校で重点教育目標の実現に向けた取組を実践し、子どもの姿を通して検証改善を図っている。

各期の終わりには、教育活動の成果と課題を明確にし、取組の足跡を可視化して共有する。目的と手段の違いを明確にして次期の「小さな約束（目標）」を設定し、強調週間において教職員・子ども・保護者が一体となって、取り組んでいる。



やるべきことをやり、自ら考えて行動する子供を育成するために

学校力向上委員会

【5期検証改善】

■総合教育目標: たくましい子ども

■具体教育目標: よく考え、すすんで学ぶ①, 思いやりがあり、助けあふ②, ねばり強く、やりぬく③, じょうぶな体にもたえる④

■重点教育目標: やるべきことをやり、自ら考えて行動する子どもの育成

【1期 4～5月 始動期】 やるべきことを自主的にやれたという自信を育み、自己肯定感を高め、

【2期 6～7月 学習活動充実期】 分かる授業を基盤とし、基礎基本の確実な定着を図ります。

【3期 8～10月 集団活動充実期】 目標に向かって活動し、協力して問題を解決する集団を育てます。

【4期 11～12月 学習活動充実期】 学びを積み上げ、よく考え、

積み重ねてきた「小さな約束」

強調週間で 行事を通して

6月10日～21日
約束【「せめて」を当たり前】
①話を聞くときは「せめて」を整える
②授業の始めと終わりは「せめて」を整える

8月20日～28日
約束【挨拶は自分から大きな声で】
①自分から挨拶
②大きな声で挨拶

10月7日～18日
約束【家庭学習の仕方が分かり続けて取り組む】
①学習したいことを選んで、家庭学習に取り組む
②点検カード等に記録し取組を続ける

5月 運動会取組
約束【みんなと力を合わせる。進んで準備や運動をする】
①友達の手伝いを認め、応援する
②めあてをもって、粘り強く取り組む
③集合・整列を素早く・静かに行う

9月 学習発表会取組
約束【話し合い 励まし合い おわりまで】
①練習や仕事を最後まで行う
②友達のよさを見つけたら改善策を教え合ったりする

3月 卒業式
約束
①
②

たくさんの小さな約束を積み重ねてきました。確実に成果が出ています。後半戦も見通しをもって「自ら考えて行動」できるよう日常的に「考えさせる」場の工夫をしながら、みんなでやり過ぎていきましょう。

期別の評価結果を受けて設定した強調週間における取組について、職員室に拡大版を掲示した。放課後は、教職員で取組を交流する場面が増えた。

目指す子ども像: 相手を意識した話し方・聞き方ができる子

みんなでやりきる 小さな約束

- 丁寧な言葉、聞きやすい声で話す。 **話す**
- 話を聞くときは、話している人の目を見て聞く。 **聞く**

この欄は次のように活用しています

教職員配布版: ここに担任の戦略を書く

拡大版 (職員室に張り出し): 担任が戦略を書いた付箋を貼る欄

取組の足跡を可視化することにより、教職員の協働意欲が高まった。

2 落ち着いた学習環境の創造

(1) 学習規律の徹底・学習習慣の定着

学習規律の徹底を図るため、「青雲のこころざし」を作成し、全学級で共通して実践している。1年間を4期に分けて、子どもの自己評価と教職員の自己評価を比較しながら教育活動の改善につなげている。

青雲のこころざし (学習用具の決まり)

1. 鉛筆
2. 消しゴム
3. 定規
4. 色鉛筆
5. 文房具箱

青雲のこころざし (かてい学習)

1. かてい学習は、「しゅくだい」と「しゅ学習」のようほうをします。
・「しゅくだい」…学校で出すがだい、決め
・「しゅ学習」…自分でやることをきめて

2. かてい学習は、時間をきめてまい日とりま
<時間のみやす(れい)>

学年	かてい学習のみやす	しゅくだい
1,2年生	20分間	10～15分
3,4年生	40分間	10～20分
5,6年生	1時間	10～20分

3. しゅ学習は、自分が「やりたい」と思っている
ことばをきくまします。
<しゅ学習のないよう(れい)>

学年	国語	算数
1年	・おんごく ・ひらがな、カタカナ ・1年生の漢字80字 ・しのあんしよつ ・しつぎをかく	・くり上りのり ・くり下りのり ・くり下りのり ・たし算のひつ ・ひき算のひつ ・じょうぎの使
2年	・音読 ・1年生の漢字80字 ・2年生の漢字160字 ・詩の朗読	・かけ算の筆算 ・わり算 ・コンパスの使
3年	・日記を書く ・2年生の漢字160字 ・3年生の漢字200字 ・国語辞典で調べ ・ローマ字	・かけ算の筆算 ・わり算 ・コンパスの使
4年	・本で調べてまとめる ・3年生の漢字200字 ・4年生の漢字202字 ・国語辞典で調べ ・ことわざ、慣用句	・わり算の筆算 ・小数や分数の ・植図と年行 ・分数のかけ算
5年	・本で調べてまとめる ・4年生の漢字202字 ・5年生の漢字193字 ・敬語	・通分、約分 ・小数のかけ算 ・体積
6年	・新聞を読んで意見を書く ・6年生の漢字181字 ・小学校の漢字1016字 ・古語の朗読 ・新聞を読んで意見を書く ・地図、拡大図	・分数のかけ算 ・体積 ・平均

全学年 学習用ソフト「ライズeライズ」

～おうちの～
確かな学力を一人一人に身に付けさせるため、本
す。ご家庭でも、集中できる環境づくりや助ましの声
旭川市立青雲

青雲のこころざし (学習時間の決まり)

- *チャイムがなる前に学習用具をつくうえの上に出します。
- *チャイムがなり終わるまでに席につきます。
- *教室移動は静かに歩きます。
- *いすにしっかり座り、せすじをのばします。
- *話をしている人を見て聞きます。
- *よばれたときは返事をします。
- *最後までしっかり話します。

(2) 学級経営交流会・研修会

学級経営交流会では、事務職員も参加し、よりよい学習環境づくりを目指して、アイデアを出し合いながら交流している。多角的な視点から教育活動の質の向上を目指している。

椅子・机の高さも重要なポイントであるという事務職員からの意見も取り入れた学級経営交流会



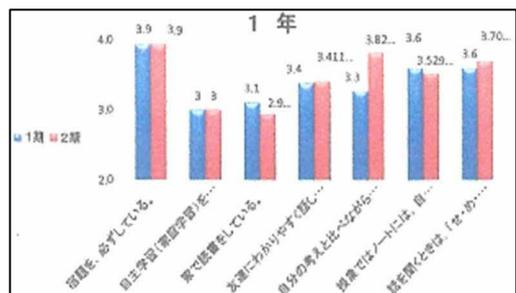
隠れたカリキュラムの実例を取り上げた学力向上のための学級経営研修

3 教育課程編成を見据え、指導方法の改善に向けたアプローチ

(1) 学力向上に向けた取組

全国学力・学習状況調査結果の自校分析、チャレンジテスト結果、NRT結果、通知表作成時の見取りのデータ等を分析・考察している。また、誤答分析により、きめ細かく子どもの強みと弱みを全教職員で共有し、授業改善に生かすようにしている。

経年変化の結果から補強が必要な領域・分野については、少人数学習やTTでの学習を位置付け、正答率の低かった問題は、復習プリントとして再度実施するなど活用している。



4 人材育成に向けた取組

(1) 人材育成プログラム

「北海道における教員育成指標」を踏まえて、初任段階、中堅層、ベテラン層のそれぞれにおいて、年間の人材育成プログラムを作成し、実践している。

(2) 「ミニ研修」による人材育成

1回当たり15分程度のミニ研修を実施している。各段階層の代表者が交代で講師を務め講話や演習を行っている。初任段階層の教員の育成とともに、ミドルリーダーの職能開発にも効果的である。



人材育成に係るミニ研修計画

1	7月 8日(水)	「授業に使えるICT活用～授業 記録編～」
2	7月 8日(水)	「ウェブ会議 Zoom を体験しよう！」
3	8月26日(水)	「教育資料の活用術 ここがポイント！」
4	10月 7日(水)	「授業に役立つ紙の本活用！」
5	10月 7日(水)	「アレルギーマッチとエビペンの使い方！」
6	11月11日(水)	「学校での応急処置！」
7	11月11日(水)	「基礎的な技術と機器を磨かせる研修！」
8	12月16日(水)	「パワーポイントを活用した研修！」
9	1月15日(金)	「子どもの成長と食の大冒険！」

※下記のミニ研修も予定しています。日程が決まり次第お知らせします。
「AEDの使い方講座」

◆今後、各分掌では以下のような研修が予定されています。

- ・全道学力・学習状況調査の分析(研修部)
- ・道庁職員研修(道庁総務課)
- ・コンプライアンス研修(コンプライアンス委員会)
- ・いじめ防止研修(生徒指導課)
- ・危機管理能力向上のケーススタディ(生徒指導課)
- ・ICT活用(文教科)

5 働き方改革の推進

(1) 小さな改善の積み重ね

働き方に係る経営の重点に従って、小さな改善を積み重ね、子どもと向き合う時間の確保と専門性・人間性を高める取組を行っている。研修部と連携して、個別の「研修の足跡」手帳とワークライフバランスシートを併せて活用し、見直しをもったタスクマネジメントとともに、年間を通して教師力・人間性を高める自己研修に取り組んでいる。今年度の時間外勤務の時間は昨年度よりも減少し、月平均32時間となり、自己研修の時間の確保をはじめ教職員の「元気づくり」への成果が表れてきている。

毎日元気に子どもたちと接するために

青雲小学校 働き方の見直し

授業やその準備に全力投球できるように

付箋による働き方見直し 主なキーワード

- ① 回数減(スリム化)
- ② 厳選(カット)
- ③ 意識改革
- ④ デジタル化

経営の重点

- ① 校務運営・教育活動の見直し
- ② 道・市の働き方改革アクションプランの反映



ねらい	教育の質向上			
	よい授業づくり		教職員の元気づくり	
方針	アイデアを生かし、小さな改善を積み重ねる			
課題	子どもと向き合う時間確保		教職員の専門性・人間性向上	
	タイムマネジメント意識	校務・運営改善	組織研修	自己研修

課題解決に向けた方策

(子どもと向き合う時間確保)		(専門性・人間性向上)			
タイムマネジメント意識(個)		校務・運営(組織)		効果的・効率的	ワーク・ライフ
意識	見直し	スリム化	平準化	研修(組織)	バランス(個)
①勤務時間の可視化 ・毎日・週・月 ・月別変化	①4期検証改善 サイクル	①学校行事見直し ・内容の見直し ・準備時間縮小	①担任外による授業 ・外国語、理科、書 写、プログラミング 等	①校内研修見直し ・全員参加型研修 ・公開研の見直し ・集録自己製本	①早く帰るデー ・毎週金曜日
②勤務時間の意識化 ・16:40-18:00放送 ・面談、日常的話題 ・啓発資料	②見直しある業務 ・年間進捗表 ・学級経営案簡略化 (目録シートと関連)	②ICT活用 ・アンケート集計 ・時数管理・通知表 ・家庭学習支援 (eライブラリ活用)	②担任外による補習 ・eライブラリ活用	②ミニ研修・初任 段階研修 ・ベテラン層活用	②時間外勤務削減 減額時間 ・8月、12月
	③目標の明確化 ・「小さな約束」	③会議の見直し ・朝打合せ廃止 ・職員会議時間	③担任の負担軽減 ・担任外での欠席確 認電話対応 ・役割の明確化 ・OJT	③校外研修助成 ・補欠体制 ・目標一人3回 ・旭教研参加	③年休取得 ・補欠体制 ・目標年間10日
	④取組の可視化 ・校務分掌計画 ・育成プラン ・ロードマップ	④その他 ・集金一括管理 ・玄関先家庭訪問 ・通知表2期制		④教材作成効率化 ・eライブラリ活用 ・教材一括管理	

令和2年度 青雲小学校版
研修の足跡

キャリアステージに応じた人材育成を目指して！
～研修編～

～学び続ける教員 進化し続ける学校をめざして～
【カリキュラム・マネジメント力等、自身の能力アップを図ろう】

- ① 自分自身の学びを客観的に振り返ろう
- ② 自分自身の学びを広げよう
- ③ 自分自身の学びを深めよう

氏名 _____

【今年度、身に付けたい】
【今年度のMY重点】

【身に付けるために】
どんなことをしたいですか？

参加してみたい研究大会・研修講座

【研修の履歴】(校外研修編)

☆今年度参加した研修について記録しよう

種類 教 教科指導 生 生徒指導 特 特別支援 他 その他

月日	研修名(簡単に)	種類
例 10/1	グローバル外国語研修	他

6 家庭・地域等との連携

(1) 「学校の新しい生活様式」定着に向けた連携・協働

衛生習慣を確立するために、学校運営委員会を核に、それぞれの分掌から意見をボトムアップし、本校の「新しい生活様式 セイウン・ニュー・ライフスタイル」を作成し、リーフレットとして、保護者、地域、近隣中学校へ配付した。

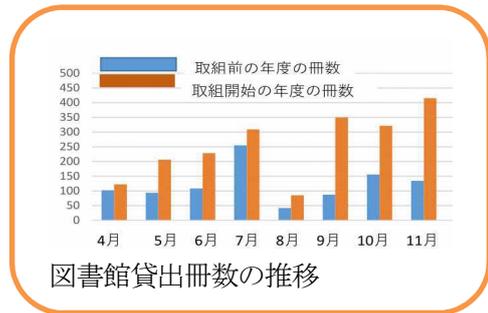
目指す姿を共有して取り組み、早い段階で定着した。



(2) 読書習慣の確立

リーフレットや学校便りを活用して、学校・家庭・地域の連携・協働を可視化し、読書の推進を実践している。

学校図書館での本の貸し出し冊数が増加するとともに、生活リズムチェック表の活用により、家庭での読書習慣が定着した。



保護者・地域に配付したリーフレット

読書の秋到来!

読書は、多くの言葉や多様な表現、情報に触れることで、言葉を学び、豊かな感性や表現力、創造力を育成するなど、子どもたちの健やかな成長に大きな影響を与えるものです。

青雲小学校の子どもたちが、より本に親しめるよう、これから学校では以下のような取組を進めています。ご家庭とともに取り組んでいくことでより子どもたちの読書への意欲も高まりますので、ご家庭でもぜひ本に親しむことのできる環境づくりにご協力をお願いします。

子どもたちのこんな想いを大切にいきましょう!

学校 家庭 地域

○ 子どもたちが「本っていいな、もっと読みたいな。」と思えるような環境づくり・機会づくりを進めます。

学校

- 図書室通信の発行
- 図書室が楽しめる企画の実施（ビンゴやスタンプラリー）
- 本の展示方法の工夫
- 学級文庫の推進
- 読み聞かせボランティアや、図書委員会との連携
- 読書週間の設定（11/11～11/22）

各学級

- 朝読書
- 授業中の図書の活用（辞典や図鑑、関連図書など）
- 図書室利用促進の声かけ
- 学級文庫の利用

地域

- 読み聞かせボランティア
- 地域の図書館
- 地域の読書関係のイベント

家庭

こんなことをしてみませんか?

例えば…

- ※10分読書
- ※絵本や物語の読み聞かせ
- ※わからないことを一緒に調べてみる
- ※家族全員で読書
- ※折り紙や料理の本と一緒に読み、実際に作ってみる
- ※家族と一緒に図書館や書店へ

授業との関わりを切り口とした読書への誘い
学校・地域が連携しながら効果的に教育活動を進めています。

例えば4年国語では・・・単元「ごんぎつね」 新美南吉 著

学校図書館

国語科で扱う物語や教材に関わる本のコーナーを学年毎に設け紹介しています。

授業情景をあらわす表現から「ごんぎつね」読み味わいました。
また、友人との対話を通して考えを広げたり深めたりしました。教室には、図書館から借りた本のコーナーを設けています。(写真)

育成する主な資質・能力

- ・心情や場面について描写を基に捉える力
- ・想像を広げ、今後の読書活動に生かそうとする態度

地域：読み聞かせボランティア

読み聞かせる本は各学年で扱う教材に関わりのあるものを取り上げています。「ごんぎつね」を取り上げる学習の時期には新美南吉の作品を魅力たっぷりに読み聞かせしてくださいました。

朝読書の推進 委員会活動での取組（11月にキャンペーン予定）

家庭でも、ぜひ「家読」への声掛けや市の図書館をご活用ください。

学校便りに掲載して発信した学習活動と読書の関わり

III 実践の成果(○)と課題(●)

- 成果と課題の視覚化により、教職員の意思疎通を図り、チームで取り組む体制が整備され、教育活動の質を高めることができた。
- 学校、家庭及び地域それぞれの役割と取組を整理して示すことで、より効果的な教育活動につながるるとともに、家庭の教育力の高まりが感じられた。
- 落ち着いた学習環境づくりに向けて、共通・一貫・徹底・継続した指導のそれぞれにおいて、成果と課題を整理し、見直す必要がある。